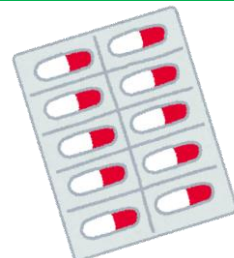


辛くないけど、ピーマン、パプリカも同種の品種！ トウガラシ (ナス科)



Capsicum annuum Linné

部位	果実
生薬名	トウガラシ 蕃椒 局方収載
成分	カプサイシン（辛味性酸アミド）
薬理	皮膚刺激作用、消化管運動亢進作用
用途	皮膚刺激薬、辛味健胃薬 トウガラシチンキなどの原料



中央・南米原産の多年草（日本などの温帯では一年草）。日本には16世紀から17世紀にかけて渡来したとされます。和名を漢字で書くと「唐辛子」で「唐」は中国を意味していますが、コロンブスによりスペインに伝えられ世界に広がったので、単に「外来の」という意味になります。また、属名の *Capsium* は「箱」という意味が語源で、「カプセル capsule」も同じ語源です。果実が空洞で種子が沢山入っている様子は説明するまでもありません。本種の特徴は白い花を付けることです。同種で辛くない品種にピーマン、パプリカ、万願寺、ししとうなどがあります。一方、世界一の辛さを競って開発されたハバネロ、キャロライナ・リーパー、ブート・ジョロキア、ペッパーX（現在世界一位）などは、緑白色の花を付ける *C. chinense* の栽培品種になります。薬用としては漢方薬に配合することはありません。なぜ利用されなかったのか？魔訶不思議です。日本では、ヨーロッパでの使用法である皮膚刺激薬として、腰痛、肩こり、筋肉痛、リウマチ、関節炎、神経痛などにトウガラシチンキを配合したパップ剤（湿布）などがあります。

ナタマメ (マメ科)

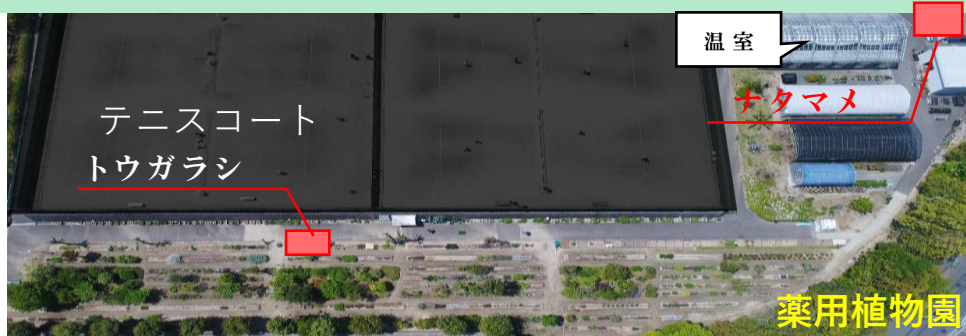
あっ！これか！「福神漬け」に入ってます

Canavalia gladiata (Jacq.) DC.



部位	種子
生薬名	刀豆（トウズ）
成分	カナバニン（アミノ酸） コンカナバリン A（レクチン）
薬理	制吐作用、抗炎症作用、しゃっくりを止める作用
薬能	理気薬、補陽薬
漢方	嘔吐や吃逆、腰痛などの治療薬に配合

熱帯アジア原産のつる性一年草。夏に開花し、その後30cmほどになる大きな莢を付け、形状や大きさが「鉈」に似ていることが和名の由来です。日本では、主に若い莢を食用にするために栽培されています。特に、福神漬けの大根以外に注目です。（本来は7種の野菜が漬けられますが、解説はまた別の機会に）中国では、成熟した種子を理気薬や補陽薬として嘔吐や吃逆、腰痛などの治療に利用される様です。また、淡赤色のものが良品とされます。なお、成熟種子は有毒であり、過剰に摂取すると吐き気や倦怠感を引き起こします。十分に茹でたり、浸漬する必要があります。



ホームページでも
ご覧いただけます